

ブランディワイン・グローバル 株式ファンド（SMA専用）

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第2期(決算日2023年9月15日)

作成対象期間(2022年9月16日～2023年9月15日)

第2期末(2023年9月15日)	
基準価額	12,936円
純資産総額	202百万円
第2期	
騰落率	20.5%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、フランクリン・templton・ジャパン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「ブランディワイン・グローバル株式ファンド(SMA専用)」は、2023年9月15日に第2期の決算を行いました。

当ファンドは、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

フランクリン・templton・ジャパン株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

フランクリン・templton・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

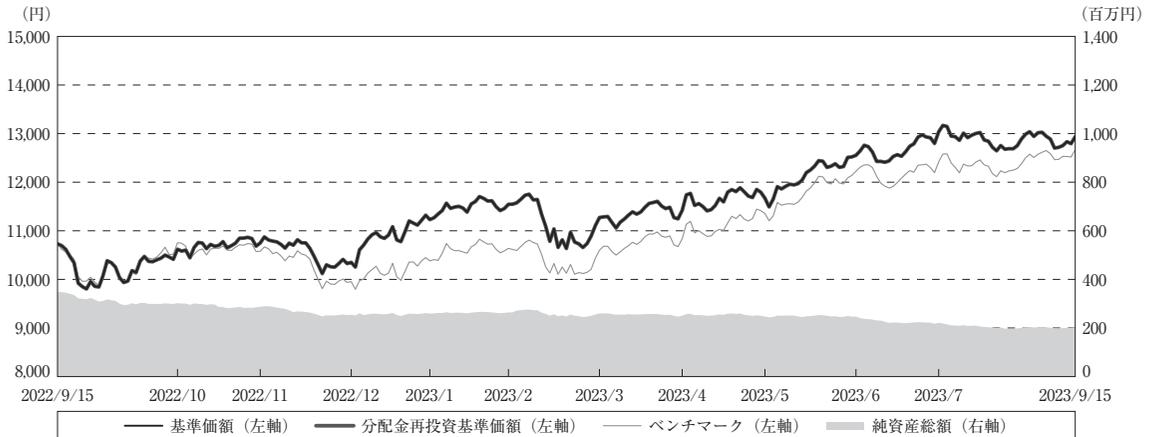
(営業日の9:00～17:00)

<https://www.franklintempleton.co.jp>

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2022年9月16日～2023年9月15日）



期首：10,732円

期末：12,936円（既払分配金(税込み)：0円）

騰落率：20.5%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首（2022年9月15日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ベンチマークは、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）です。

○基準価額の主な変動要因

当期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）は、プラスとなりました。
株式要因と為替要因がいずれもプラスとなりました。

1万口当たりの費用明細

（2022年9月16日～2023年9月15日）

項 目	当 期		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	94 (76) (15) (4)	0.825 (0.660) (0.132) (0.033)	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株 式)	11 (11)	0.093 (0.093)	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益 権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料
(c) 有価証券取引税 (株 式)	5 (5)	0.042 (0.042)	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益 権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する 税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷等費用) (そ の 他)	11 (5) (2) (4) (0)	0.096 (0.048) (0.016) (0.031) (0.000)	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保 管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付 および届出に係る費用 金銭信託預入に係る手数料等
合 計	121	1.056	
期中の平均基準価額は、11,445円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

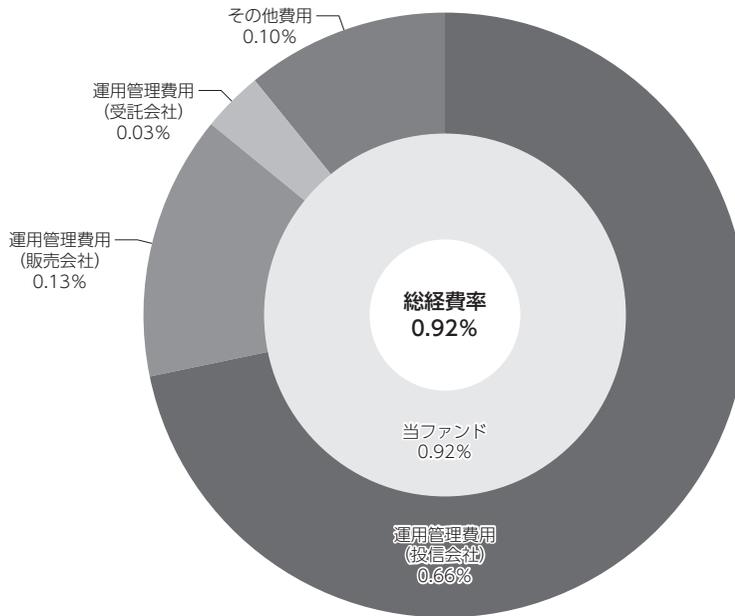
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.92%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年9月18日～2023年9月15日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2021年10月15日です。

	2021年10月15日 設定日	2022年9月15日 決算日	2023年9月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,732	12,936
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	7.3	20.5
ベンチマーク騰落率 (%)	—	7.1	18.0
純資産総額 (百万円)	1	348	202

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年9月15日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) ベンチマークは、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）です。

投資環境

（2022年9月16日～2023年9月15日）

米国S&P500指数の推移

当期の米国株式相場は、上昇しました。
 期の前半は、欧米の積極的な金融引き締め姿勢を受け上値の重いスタートとなりましたが、インフレ改善に対する期待などを背景に次第に株価を買い戻す動きが優勢となりました。

期の半ばは、米銀の相次ぐ経営破綻に加え、スイスの大手金融機関の経営不安が浮上するなど金融システムに対する不安が株価の上値を抑える場面がありましたが、米金融当局が銀行への支援を拡充する方針を示すなど金融システム不安が和らいだことで、株価は回復基調となりました。

期の後半は、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引き締めが長期化すると観測が株式相場の重しとなった一方、人工知能（AI）銘柄の将来性に対する期待感から半導体関連銘柄などのハイテク株が上昇したことが相場を押し上げる要因となりました。その後は、米格付け会社フィッチ・レーティングスが米国国債の格下げを発表したことなどから株価はやや上値の重い展開となる場面があったものの、米国景気の底堅さが株価を下支えしました。



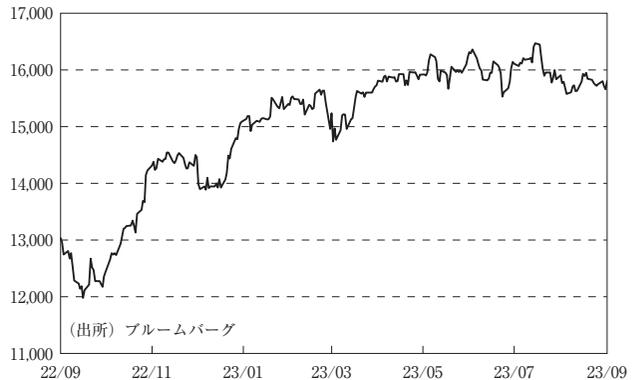
ドイツ株価指数（DAX）の推移

当期のドイツ株式相場は、上昇しました。

期の前半は、欧米の金融引き締めを巡る警戒感から株価は下落して始まりましたが、次第に買い戻しの動きが優勢となりました。その後も欧州中央銀行（ECB）による金融引き締めの継続観測が株価の上値を抑える場面が見られましたが、中国における厳しい新型コロナウイルス規制の緩和への期待や、ユーロ圏の一部経済指標の良好な結果によって景気懸念が和らいだことなどから、株価は底堅く推移しました。

期の半ばは、米銀の相次ぐ経営破綻に加え、スイスの大手金融機関の経営不安が浮上したことでリスク回避姿勢が強まり、株価は一時下落しましたが、金融危機が欧州全体に広がるとの過度な懸念には至らず、株価は持ち直しました。

期の後半は、ECBが利上げを継続すると観測が根強い中、株価は上値の重い展開となりましたが、米国の株式市場が底堅く推移する中で、ドイツ株式市場の下値は限定的となりました。



当期の米ドル・円相場は、米ドル高・円安となりました。

期の前半は、FRBが積極的な利上げを続けるとの見方が根強い中、米ドル買い・円売りが進む場面もありましたが、急激な円安が進む中、過度な円安を阻止する狙いから、政府と日銀が円買い為替介入を実施したことで、米ドル売り・円買いの動きが加速しました。

期の半ばは、欧米の金融システム不安が米ドル売りを招く場面もありましたが、米国経済指標の結果などを受けて米国景気悪化への過度な懸念が後退したことに加え、日銀の植田新総裁が現行の金融緩和策を当面、継続する方針を示したことから、米ドル買い・円売りが改めて優勢となりました。

期の後半は、日銀が金融政策決定会合で長短金利操作（イールドカーブ・コントロール、YCC）の修正案を議論すると報じられ、大規模な金融緩和策の修正観測が浮上したことなどから、米ドルが対円で一時上値の重い展開となりましたが、日銀がYCCの運用見直しを発表した後は、米ドルを買い戻す動きが優勢となりました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。

期の前半は、ECBの金融引き締め観測がユーロを下支えした一方、ロシア・ウクライナを巡る地政学的リスクが高まった場面ではユーロ売り・円買いが優勢となりました。中国で新型コロナウイルス対策に対する抗議活動が広がり、同国政治の先行き不透明感や経済の悪化懸念が強まったことも、ユーロ売り・円買い要因となりました。

期の半ばは、欧州委員会がユーロ圏の2023年の実質経済成長率（GDP）の見通しを上方修正し、欧州経済の先行き懸念が後退したことなどから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。欧米の金融システム不安が強まった局面ではユーロ売り・円買いが進みましたが、日銀が大規模な金融緩和策を維持することを決定したことなどが、ユーロ買い・円売りの要因となりました。

期の後半も、ユーロ圏と日本の金融政策の差が意識される中、ユーロ買い・円売りの流れは続きましたが、米国と比べたユーロ圏景気の弱さが意識されると、ユーロは対円で上値の重い展開となりました。

米ドル／円相場の推移



ユーロ／円相場の推移



当ファンドのポートフォリオ

（2022年9月16日～2023年9月15日）

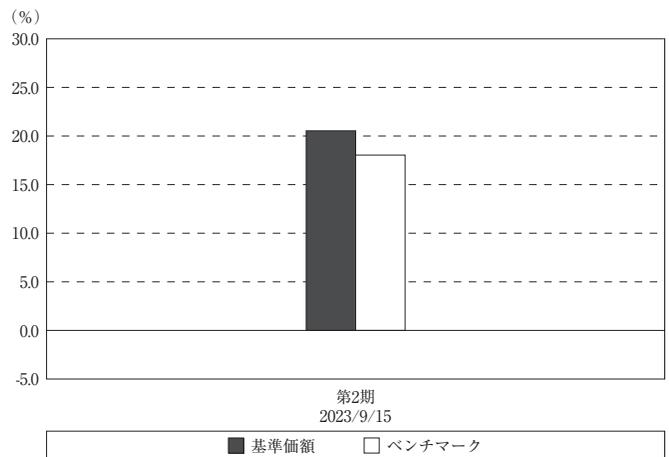
当ファンドは、主に「ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主に日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場している株式に投資を行うことにより、信託財産の長期的成長を目指して運用に努めてまいりました。当ファンドの運用においては、マクロ分析に基づくトップダウンの投資判断と、ボトムアップの個別銘柄分析に基づく銘柄選択を合わせて、本源的価値に比べて割安と判断される銘柄を厳選し、ポートフォリオの構築を行いました。MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2022年9月16日～2023年9月15日）

当ファンドのパフォーマンスはベンチマークをアウトパフォームしました。ユーロ圏株式や金融セクターをオーバーウェイトとしたことのほか、カナダ株式の銘柄選択等が相対パフォーマンスにプラス寄与しました。一方、米国株式や情報技術セクターをアンダーウェイトとしたことが相対パフォーマンスにマイナス寄与となりました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

（注）ベンチマークは、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）です。

分配金

（2022年9月16日～2023年9月15日）

分配金につきましては、基準価額動向や保有株式等の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第2期
	2022年9月16日～ 2023年9月15日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	2,936

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドは、主に「ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主に日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場している株式および不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行うことにより、信託財産の長期的成長を目指してまいります。当ファンドの運用においては、マクロ分析に基づくトップダウンの投資判断と、ボトムアップの個別銘柄分析に基づく銘柄選択を合わせて、本源的価値に比べて割安と判断される銘柄を厳選し、ポートフォリオの構築を行います。MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）をベンチマークとし、これを中長期的に上回る投資成果を目指してまいります（ただし、この目標の達成を約束するものではありません）。

お知らせ

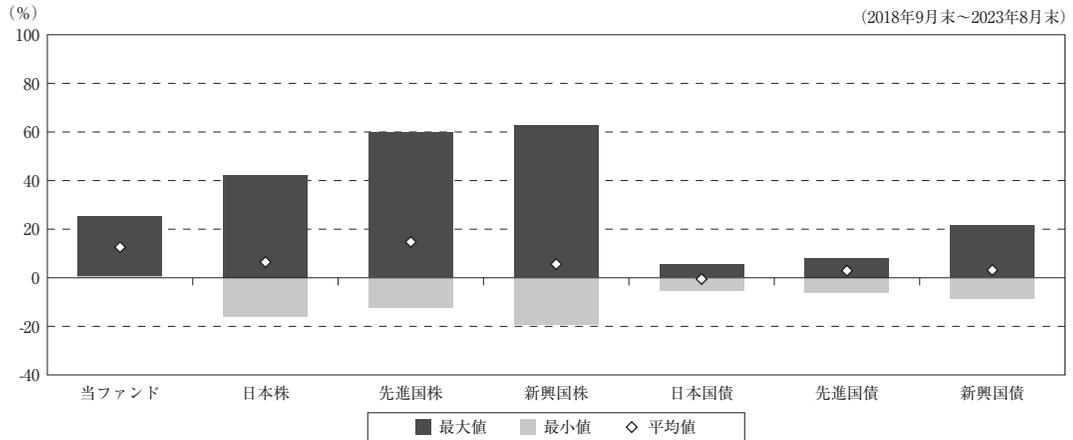
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2021年10月15日～2031年9月12日	
運 用 方 針	主に「ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。	
主 要 投 資 対 象	当 フ ァ ン ド	「ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド	日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	当 フ ァ ン ド	「ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド」受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド	原則として対円での為替ヘッジを行いません。ただし、見通しに基づいて米ドルを基準として相対的な魅力度を判断して、外国為替の予約取引等を通じて個別株式選択の結果とは異なる通貨配分とする場合があります。 株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	決算時（毎年9月15日、休業日の場合は翌営業日）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	25.2	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	0.6	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	12.6	6.5	14.8	5.6	△ 0.5	2.9	3.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2022年10月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債…NOMURA-BPI 国債

先進国債…FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債…JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○当ファンドのベンチマークについて

ベンチマークはMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）
 ※MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を含む世界の主要先進国・新興国の株式で構成されています。MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、円換算ベース）は、MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス（税引き後配当込み、ドルベース）をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックスに対する著作権およびその他知的財産権は、全てMSCI Inc. に帰属します。MSCIでは、かかるデータに基づく投資による損失に一切責任を負いません。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2023年9月15日現在）

○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド	100.5%
組入銘柄数	1銘柄

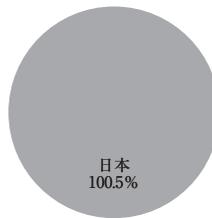
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

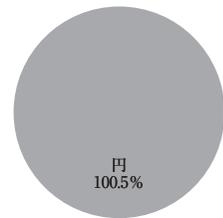
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

純資産等

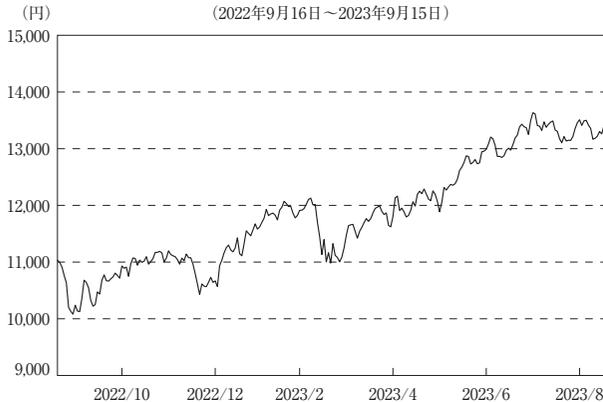
項目	第2期末
	2023年9月15日
純資産総額	202,421,397円
受益権総口数	156,476,962口
1万口当たり基準価額	12,936円

* 期中における追加設定元本額は24,760,821円、同解約元本額は193,339,171円です。

組入上位ファンドの概要

ブランディワイン・グローバル・オポチュニスティック株式・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年9月16日～2023年9月15日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	12 (12)	0.105 (0.105)
(b) 有価証券取引税 (株式)	6 (6)	0.053 (0.053)
(c) その他費用 (の保管費用) (その他)	5 (5) (0)	0.046 (0.045) (0.000)
合計	23	0.204

期中の平均基準価額は、11,817円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

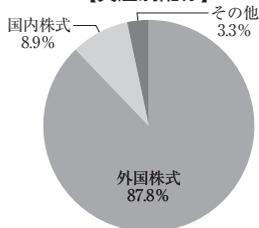
【組入上位10銘柄】

(2023年9月15日現在)

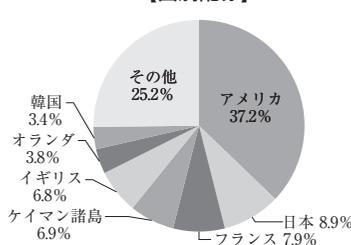
銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1 BNP PARIBAS	金融	ユーロ	フランス	3.0
2 BAITU INC - SPON ADR	コミュニケーション・サービス	米ドル	ケイマン諸島	2.9
3 ALIBABA GROUP HOLDING-SP ADR	一般消費財・サービス	米ドル	ケイマン諸島	2.7
4 COMPAGNIE DE SAINT GOBAIN	資本財・サービス	ユーロ	フランス	2.7
5 CVS HEALTH CORP	ヘルスケア	米ドル	アメリカ	2.6
6 GLOBAL PAYMENTS INC	金融	米ドル	アメリカ	2.5
7 BP PLC	エネルギー	イギリスポンド	イギリス	2.3
8 LG CORP	資本財・サービス	韓国ウォン	韓国	2.3
9 BANCO SANTANDER SA	金融	ユーロ	スペイン	2.3
10 DEUTSCHE TELEKOM AG-REG	コミュニケーション・サービス	ユーロ	ドイツ	2.1
組入銘柄数			69銘柄	

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

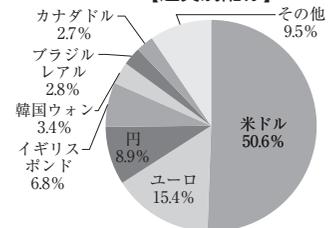
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。
 ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。